

うしお

第 146 号

昭和 43 年 8 月

目 次

| | | |
|---------------------|---------|----|
| 昭和 42 年度のり養殖概況 | 養 殖 部 | 1 |
| 魚 場 観 測 速 報 (7 月 分) | 〃 | 11 |
| 定 置 観 測 (7 月 分) | 〃 | 13 |
| 7 月 の 漁 海 況 | 漁 業 部 | 14 |
| 奄 美 短 信 | 大 島 分 場 | 15 |
| 業 務 概 況 | 編 集 部 | 16 |

鹿兒島市城南町 20 番 12 号

鹿兒島県水産試験場

昭和42年度のり養殖概況

養殖部

1. 施設数

第1表に示すように県下17漁協、364経営体で網ヒビ12036枚により養殖した。これは前年度の11漁協295経営体よりも増加している。

各漁協別に経営体数の変動をみると、谷山が15、岩本11、川内11、その他出水、喜入などが増加した他、新たに養殖を始めた経営体数は西桜島1、国分7、鹿屋5、島平24で、減少した漁協は牛根、垂水などであった。

第1表 漁協別、採苗別網ヒビ数 (漁協からの報告資料)

| 漁協別 | 経営体数 | 網ヒビ数(枚) | | | | 合計 | 移植ヒビの採苗地 |
|------|------|---------|-------|------|-------|--------|----------|
| | | 天然採苗 | | 人工採苗 | | | |
| | | 地元 | 移植 | 地元 | 移植 | | |
| 出水市 | 165 | 3,667 | 1,658 | 205 | 3,974 | 9,504 | 佐賀 福岡 熊本 |
| 東町 | 8 | 123 | | | 4 | 127 | 出水 |
| 長島町 | | 50 | | | | 50 | |
| 黒之浜 | 1 | | | | 30 | 30 | |
| 阿久根市 | 1 | | 4 | | 5 | 9 | 佐賀 |
| 川内市 | 33 | | | | 204 | 204 | 佐賀 熊本 |
| 島平 | 24 | | | | 400 | 400 | 佐賀 |
| 入房 | 2 | | | 60 | 3 | 63 | 熊本 |
| 岩本 | 12 | | | | 57 | 57 | 熊本 |
| 喜入町 | 19 | 14 | | | 44 | 58 | 垂水 |
| 谷山 | 44 | | | 120 | 445 | 565 | 熊本 |
| 西桜島村 | 1 | | | | 4 | 4 | 谷山 |
| 加治木町 | 19 | | | | 347 | 347 | 熊本 出水 |
| 国分市 | 7 | | | | 220 | 220 | 出水 |
| 牛根 | 6 | | | | 62 | 62 | 垂水 |
| 垂水市 | 17 | | | 316 | | 316 | |
| 鹿屋市 | 5 | | | | 20 | 20 | 垂水 |
| 計 | 364 | 3,854 | 1,662 | 701 | 5,819 | 12,036 | |

また、網ヒビ数は出水が4242枚、谷山207、垂水96、牛根98枚、川内60が前年度よりも増加しており、その他新規に島平400、国分200枚が増加した。岩本では減少している。

網ヒビを採苗別にみると、天然採苗ヒビは5516枚で、網ヒビ総数の45%で、その大部分が出水で採苗されている。

人工採苗ヒビは6520枚で、これは昨年よりも2300枚増えている。しかし、これら人工採苗ヒビは出水、谷山、垂水を合計して541枚を地元人工採苗している他は熊本、佐賀、福岡などからの移植に依存している。

2. 生産量

第2表 漁協別生産量 (漁協からの報告資料)

| 漁協別 | 生産量 (千枚) | | | | ヒビ1枚 当り生産 量 (枚) | 備考 |
|------|----------|---------|--------|---------|-----------------------|------------|
| | くろのり | まぜのり | あおのり | 計 | | |
| 出水市 | 2,462.1 | 929.7 | 296.4 | 3,688.2 | 388.6 | |
| 桌町 | | 17.5 | 3,40.8 | 358.3 | 2,821.3 | バラのりを枚数に換算 |
| 長島町 | 0.5 | 0.5 | 1.0 | 2.0 | 40.0 | |
| 黒之浜 | 22.0 | | | 22.0 | 733.3 | |
| 阿久根市 | 14.3 | 0.7 | | 15.0 | 1,666.6 | |
| 川内市 | 12.0 | | | 12.0 | 58.8 | |
| 島平 | 271.0 | | | 271.0 | 677.5 | |
| 八房 | | | | 0 | 0 | |
| 岩本 | 0.2 | | | 0.2 | 2.9 | |
| 喜入町 | 12.0 | 3.1 | | 15.1 | 260.3 | |
| 谷山 | 117.2 | 104.3 | 5.8 | 227.3 | 402.3 | |
| 西桜島村 | 0.3 | | | 0.3 | 75.0 | |
| 加治木町 | 7.0 | 13.0 | 8.0 | 28.0 | 80.7 | |
| 国分市 | 7.0 | | | 7.0 | 31.8 | |
| 牛根 | | 10.0 | 2.0 | 12.0 | 193.5 | |
| 垂水市 | 812.0 | | | 812.0 | 2,569.6 | |
| 鹿屋市 | 18.9 | | | 18.9 | 945.0 | |
| 計 | 3,756.5 | 1,078.8 | 654.0 | 5,489.3 | 456.0 | |

第3表 鹿児島県の年度別生産状況

| 年度 | 経営体数 | 養殖ヒビ数 | 生産枚数 (千枚) | ヒビ1枚平均 生産枚数 | のり平均 単価(円) | 備 考 |
|----|--------------|------------------|----------------------|------------------|---------------|------------|
| 30 | 116 | | 432.7 | | | 農 林 統 計 |
| 31 | 95 | | 1,230.5 | | | 〃 |
| 32 | 190 | | 1,378.1 | 382 | | 〃 |
| 33 | 197 | | 2,199.2 | 733 | | 〃 |
| 34 | 230 | | 934.8 | 467 | | 〃 |
| 35 | 256 | 3,079 | 2,291.3 | 725 | | 〃 |
| 36 | 199 | 2,311 | 3,039.8 | 1,062 | 5.73 | 水 試 調 査 |
| 37 | 268 | 2,342 | 4,080.9 | 1,482 | 7.32 | 〃 |
| 38 | 266 | 3,446 | 3,003.0 | 801 | 13.46 | 〃 |
| 39 | 330 | 6,414 | 4,725.0 | 736 | 9.20 | 農林(一部水試)統計 |
| 40 | 333 | 6,364 | 3,487.4 | 548 | 10.98 | 水 試 調 査 |
| 41 | 295 (294) | 6,655 (6,665) | 7,925.7 (9,593.0) | 1,209 (1,439) | 11.71 | 水試調査(農林統計) |
| 42 | 364 | 12,036 | 5,489.3 | 456 | 15.50 | 水 試 調 査 |

第2表に漁協別生産状況を示した。

県全体の総生産枚数は約549万枚、金額にして約8000万円で、昨年度の総生産枚数に比して約30%減となった。しかし金額では14%減にとどまった。網ヒビ1枚当りの平均生産枚数は総体の平均では456枚で、昨年の3分の1に近い生産に落ちたが、地区別にみると垂水の網ヒビ1枚当り2570枚から岩本3枚というように地区別の豊凶が大きかった。過去5ケ年のヒビ1枚当り生産枚数(955枚)を平年作柄とみると、本年度は47%の作柄となった。

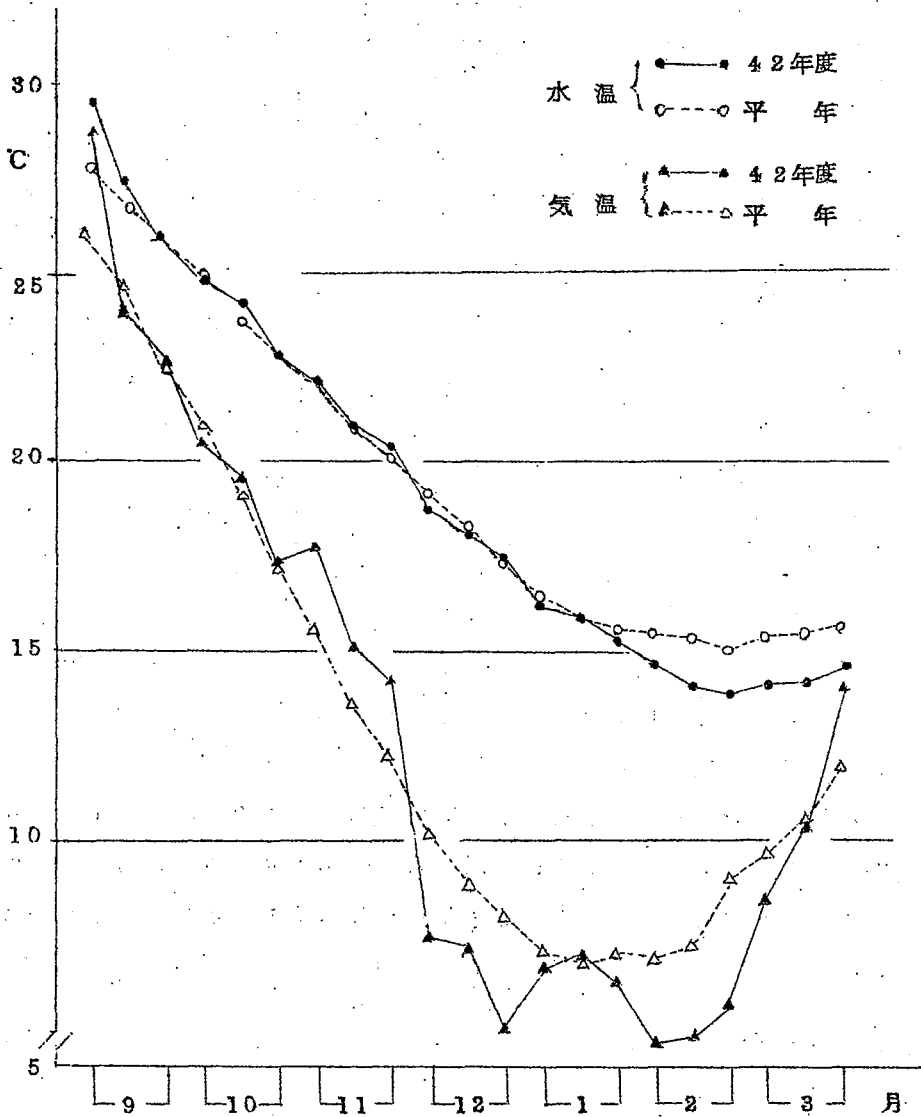
3. 気象・海況

○ 水 温

漁期間中の水温をみると(第1図)、11月下旬に平年よりもやゝ高目を示したあと1月中旬まではわずかに低いか又は平年並みであつた。しかし、更にその後1月中旬以降の盛漁期には平年よりも1℃以上も低い水温を示している。

○ 気 温 (鹿児島) ; 気象台資料から

10月以降11月中旬までは平年よりも高めであつたが、11月下旬以降は1月中旬に平年並みの気温を示した他は2℃程度低かつた。そして3月中旬からは平年よりも高くなる傾向を示した。



第1図 旬別平均水温・気温変化

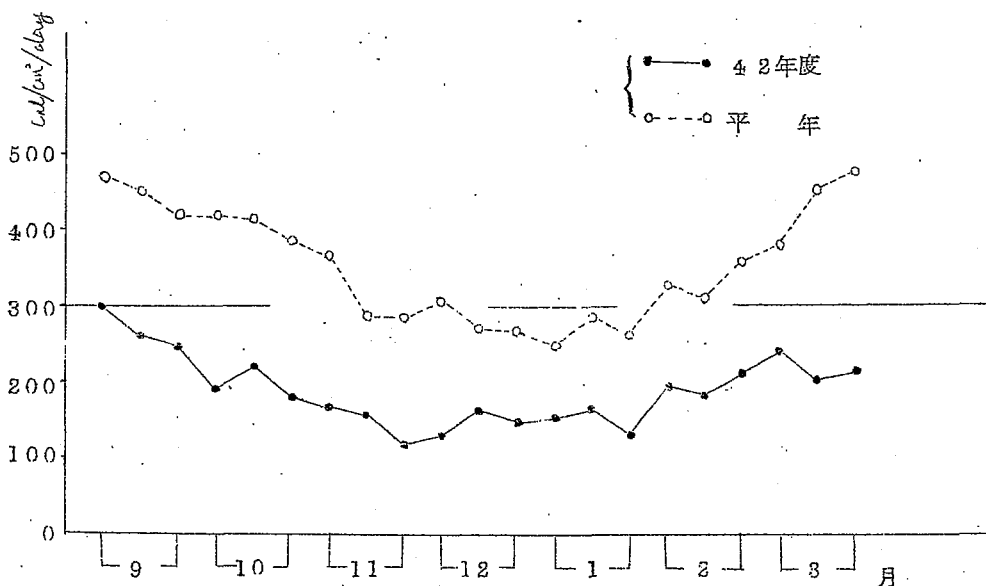
○ 水平面日射量（鹿児島）：気象台資料から

第2図にみるように9月から3月までの漁期及びその前後を通じて日射量は遙かに少なかった。

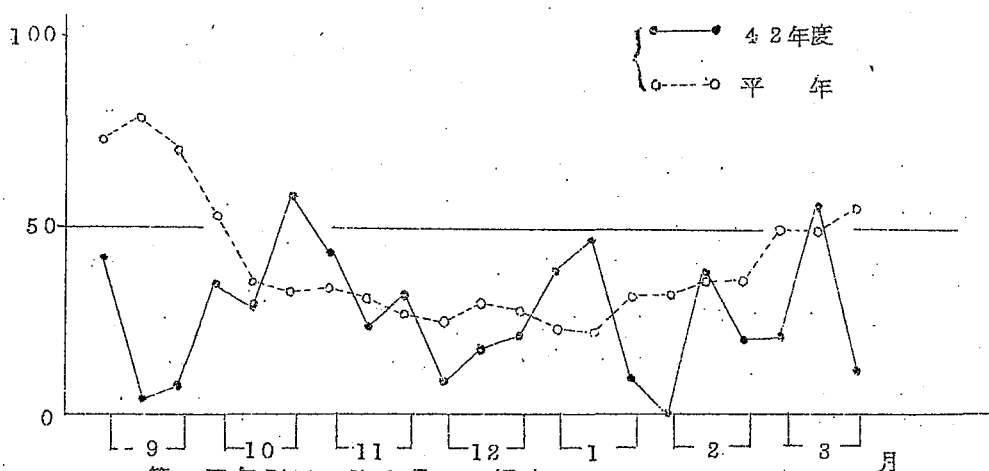
○ 降雨量（鹿児島）：気象台資料から（第3図）

10月下旬，1月中旬に平年よりも20mm程度多くなつた他は平年よりも少なめとなり，殊に12月上旬，1月下旬，2月上旬が少なかった。

集中的な大雨はなかつた。



第2図 旬別平均日射量（鹿児島気象台資料）



第3図 旬別平均降水量（鹿児島気象台資料）

4. 養殖概況

○ 採苗期

1. 人工採苗

出水地区：10月18～19日建込み，芽付きは10月26日（田畑技師調査）でヒビ糸1cmの片半面で68個。10月下旬の台風34号によりヒビが打上げられ，芽付きが減少した。

垂水地区：早期採苗として10月18日に牛根漁場で15枚のヒビが建込まれた。芽付きは10月29日でヒビ糸1cm当り17～33個，アオノリ3～10個でヨゴレも多く，10細胞体以上のノリ芽は芽イタミが多かった。

主力は11月2～3日に建込まれ，11月9日の芽付きは87～290個，平均170個/cmと濃密で，アオの着生も認めなかった。

谷山地区：研究グループによるはじめての採苗で11月2日に建込まれた。芽付きは11月11日に200個/cm以上と濃密であった。

幼芽は色が黄褐色で色素体も萎縮した状態を呈し，栄養不良を感じた。

2. 天然採苗

出水地区：野口漁場を主体として本年は採苗ヒビ数が3600枚と急増した。建込みは10月下旬～11月中旬で，例年より早目であった。芽付きは特に調べなかったが，良，不良のムラがあつたようである。

長島地区：11月上旬に張り込んだ。又，ヒトエグサは芽付きが良かった。

○ 移植

出水地区は県外からの移植ヒビが10月25日から11月上旬にかけて張り込まれた。11月4日に島平漁場に移植された県外ヒビの芽付きはヒビ糸1cm当り100～200個と濃密で，ノリの最大長2cm，平均2mmであつた。しかし，芽イタミ症状が30～60%の割合でみられた。

鹿児島湾地区は垂水人工ダネが11月中旬配布，県外からの移植分が11月上～下旬に建込まれた。

○ 生 長 期

出水地区：県外からの早ダネヒビは11月20日には最大10cmに伸長したのもあつたが、特に福之江及び名護漁場では11月下旬～12月上旬に白グサレによつて生育不振となつた。被害の小さい沖合漁場では11月下旬から僅かながら摘採期に入つた。潟，古浜，野口地区では例年通り12月下旬～1月に入つて摘採期に入つた。

西蔭地区：島平漁場では一時ノリ芽の脱落流失等がみられたが，12月上旬から摘採をはじめるとなつた。黒瀬漁区では色落ちがみられたが，漁期後半には回復した。

鹿児島湾地区：薩摩半島側の岩本，喜入，谷山漁場は芽イタミによる發育不振で，例年より1ヶ月以上遅れて2月上旬から摘採期に入つた。

一方，垂水，高須漁場では順調な生育を示し，12月下旬から生産期に入つた。

○ 病 害

1. 白グサレ

本年度の不作の主因となつた。大きな被害を受けた出水福之江漁場では10月下旬～11月上旬に移植した県外分人工採苗ヒビが11月20日頃に最大10cmに生長したが，軽いチヂミ症状と共に生長停滞があつた。12月に入つて葉先から白くクサレて流失がひどくなつた。12月6～7日の現地調査の結果，約3,500枚のヒビのうち，1,000枚が重症ヒビ（エリスロシン0.2%海水溶液に2分間浸漬処理で葉体の50%以上の部分が染色される）で河口から漁場中央にかけて多かつた。潮通しの良い沖合にかけて軽症となつていた。被害ノリには糸状細菌が体表面に密生し，特に下芽の幼芽の枯死したものにも著しく着生していた。

移植時から12月上旬の流失までの約1ヶ月間の病徴は調べていないが，福之江へ移植したヒビと同じ採苗網が島平漁場へ移植されており，このヒビの移植当時11月6日の観察では前述のとおり30～60%の幼体に芽イタミ症状がみられていた。島平漁場では11月下旬に軽いチヂミ症状で，ヒキが弱く脱落流失するものもかなりあつたが，白グサレ症状は発現せず摘採期に入つた。しかし1月中旬までヒビ1枚当り300～400枚の生産にとど

まつた。島平漁場では同じヒビを12月上旬に冷凍保蔵し、1月中旬に出庫したところ、3月まで好調な生産をあげヒビ1枚当り1,000~1,200枚となつた。

以上のことを総合してみると、本県における白グサレ病害の特徴は、

- (1) 幼芽期に芽イタミ症状がみられた。(11月上旬)
- (2) 11月中旬に生長の停滞がみられ、5~10cmのノリ葉体にチヂミ症状があつた。
- (3) 11月下旬~12月上旬にかけて葉体の縁辺から白化枯死して流失した。当時の下芽も枯死したものが多かつた。
- (4) 糸状細菌が特に死細胞表面に密生していた。
- (5) 病状は、河口漁場、漁場の中央部附近が重症で、潮通しのよい沖合、外海漁場では僅かながら生産に結びついた。

2. 芽イタミ

鹿児島湾漁場のうち大隅半島側の垂水、高須漁場は好調な生産をあげた反面、薩摩半島側の岩本、喜入、谷山、重富漁場は不作であつた。その主因は芽イタミである。

岩本漁場では10月29日に県外(熊本県)から移植し濃密な芽付きであつたが、12月になつても発芽がみられず(70% $<$)57枚のヒビから1月4日に僅か200枚の生産にとどまつた。

喜入漁場では垂水人工採苗ヒビを11月中旬に移植したが、12月中旬で肉眼視されないヒビが53%、ノリの着生が散見されるもの30%、ほぼ全面に発芽しているヒビ17%となつている。

谷山漁場は11月2日に野外人工採苗したヒビでは12月上旬に1cmに生育したが着生にムラがあつた。そしてその後は生長よりも脱落流失がひどく、生産に結びつかないヒビが多かつた。同漁場での水試の試験ヒビでも11月2日の野外採苗後11月中旬と、12月上旬にノリ芽の減少がみられ、12月13日のエリスロジン染色による調査でも60~90%の幼芽が染色された。そして12月下旬になつて肉眼的幼体が認められるようになつた。

又、谷山漁場で採苗したヒビのうち4枚を12月1日西桜島村漁協の試験ヒビとして同村小池に移植したものは、順調に生育し1月上旬に摘採可能とな

っている。このことは幼芽の生育にとつて、薩摩半島側が不良な環境にあつたことを証明している。そして、谷山漁場では1月に入つてからノリの生長が回復し、2月から生産期に入つた。

○ 生産期

出水地区：11月下旬から早ダネヒビの摘採期に入つたが、白グサレによる病害で福之江、名護漁場が生産低下となつた。

被害をまぬがれた、潟、ワラビ島、野口の漁場に1月20日船舶廃油と思われる重油被害が発生し生産盛期のノリ網の生産減、2月下旬の台風によつてヒビの流失等、被害が続き不作となつた。

川内地区：出水地区同様に早ダネヒビに依存しており、凶作となつた。

串木野地区：八房川漁場は白グサレ、アオノリの被害で生産がなかつた。

島平漁場は本年度はじめて企業的な規模で実施し、県外産早ダネに依存していたが、外海漁場であつたために生産に結びついた。特に冷蔵網として1月中～下旬に出庫したヒビは好調な生産をあげた。

鹿児島湾地区：岩本漁場は凶作、喜入、谷山漁場が僅かに生産をあげ、特に2月以降が生産期となつた。

一方、垂水、高須漁場では順調な生育をして、垂水ではヒビ1枚当たり平均2.57.0枚と従来の記録を大きく破り豊作となつた。

5. 共 販 概 況

県漁連主催による出水共販は12月26日から4月18日まで7回実施された。当初の計画では12月に2回実施することにしたが、病害による生産不振のため12月は1回となつた。

総出荷量は約510万枚で総生産量の95%であつた。漁協別(第4表)では18漁協から出荷され、出水が72%、垂水が16%、島平5%、谷山4%の順で、この4漁協で98%を占めた。

共販ごとの平均単価の変動は第2回(1月17日)の18円93銭を最高に5回(3月8日)までは15円内外を保つたが、6～7回はアオノリの出荷が多く7～9円と低下した。しかし、本年度は全国的な不作のため、価格は高めを保ち、共販総平均は15円50銭と、従来の記録を更新した。(第3表参照)

第4表 共販日別・漁協別出荷量（県漁連資料）

| 漁協別 | 回 | 計 | | | | | | | 出荷量 | 平均単価 |
|------------------|----|----------------------|--------|--------|--------|----------|--------|--------|----------|----------------------|
| | 月日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | | |
| | | 12月26日 | 1月17日 | 2月2日 | 2月17日 | 3月8日 | 3月29日 | 4月18日 | | |
| 出水市 | | 357.1 | 718.7 | 771.5 | 698.4 | 701.8 | 369.6 | 71.07 | 3,688.17 | 14.60 ^円 銭 |
| 東町 | | | | | | | | 4.4 | 4.4 | 5.18 |
| 阿久根市 | | 0.4 | 1.0 | | 2.2 | 3.6 | 3.0 | 3.6 | 13.8 | 18.73 |
| 川内市 | | 5.3 | 3.1 | 0.9 | 0.6 | | | | 9.9 | 19.53 |
| 島平 | | 30.3 | 32.7 | 33.6 | 44.2 | 50.97 | 53.97 | 25.08 | 270.82 | 16.11 |
| 喜入町 | | | 5.3 | 6.9 | 7.1 | 2.5 | | | 21.8 | 15.98 |
| 谷山 | | | | 1.6 | 61.2 | 92.1 | 55.48 | 16.9 | 227.23 | 14.30 |
| 加治木町 | | | | | | | 3.6 | | 3.6 | 6.53 |
| 国分市 | | | | 6.0 | | | | | 6.0 | 15.87 |
| 牛根 | | | | 2.1 | | 0.9 | 1.8 | | 4.8 | 16.85 |
| 垂水市 | | | 184.2 | 189.4 | 148.98 | 183.45 | 106.02 | | 812.05 | 19.74 |
| 鹿屋市 | | | 5.4 | 0.8 | 2.2 | 5.7 | 2.6 | 1.4 | 18.1 | 16.87 |
| 根占町 [※] | | | | | 3.0 | 6.1 | | | 9.1 | 12.66 |
| その他 [※] | | | 9.07 | | | 3.1 | | | 12.17 | 12.36 |
| 計 | | 393.1 | 959.47 | 1012.8 | 967.88 | 1,050.22 | 596.07 | 122.45 | 5,101.99 | |
| 平均単価 | | 17.23 ^円 銭 | 18.93 | 16.26 | 16.40 | 14.34 | 9.71 | 7.93 | | 15.50 |

※ は岩のり又はヒネモノ。

漁協別総平均単価は、垂水が2～6回に出荷して19円74銭と最もよく、豊作と相俟つて品質的にも良かったことがうかぶ。

一方、不作地区の出水、谷山地区は平均単価も比較的安く、外海漁場の川内、阿久根、島平地区は高めを示した。

漁 場 観 測 速 報 (7月分)

養 殖 部

- 浦内の7月水温は、最高水温の平均が25.76℃、最低水温の平均が24.36℃。月間の最高水温は下旬の29.5℃、最低水温は上旬の22.5℃であつた。前月よりも3℃以上高くなり、昨年同期よりも低目を示している。
- 水成川の水温は最高水温の平均が24.46℃、最低水温の平均が23.83℃で、浦内よりも低目を示した。月間の最高水温は下旬の27.6℃、最低水温は上旬の21.0℃。前月からは4℃近く高く、上昇傾度は他区よりも大である。昨年同期よりも1℃余り低くなつている。
- 福山の水温は、最高水温の平均が27.21℃、最低水温の平均が23.20℃で、最高最低の較差が他地区よりも大きく、いわゆる湾奥の特性を示している。月間の最高水温は下旬の31.5℃、最低水温は上旬の21.0℃。前月より3℃余り高くなつたが、前年同期に比して最高で1.7℃、最低で2.7℃低くなつた。
- 全般的に前月よりも3℃以上高くなり、下旬には外海に面した地区で27～28℃、湾奥で30℃に上昇するようになつた。またどの地区でも昨年同期よりも1℃前後低目を示した。

長崎海洋气象台7月下旬発表の西日本海況旬報によると、平年に比べてかな

り低目であつた黄海南部の冷水域が残んど平年並みに近づいたため、全域にわたり平年並みかやゝ低目の状態となつている。今後の海面水温は緩やかに上昇し、大体平年並みからやゝ高目に推移する見込みである。なお、沿岸、入海などでは赤潮の発生するおそれもあるから注意するようにと報じている。

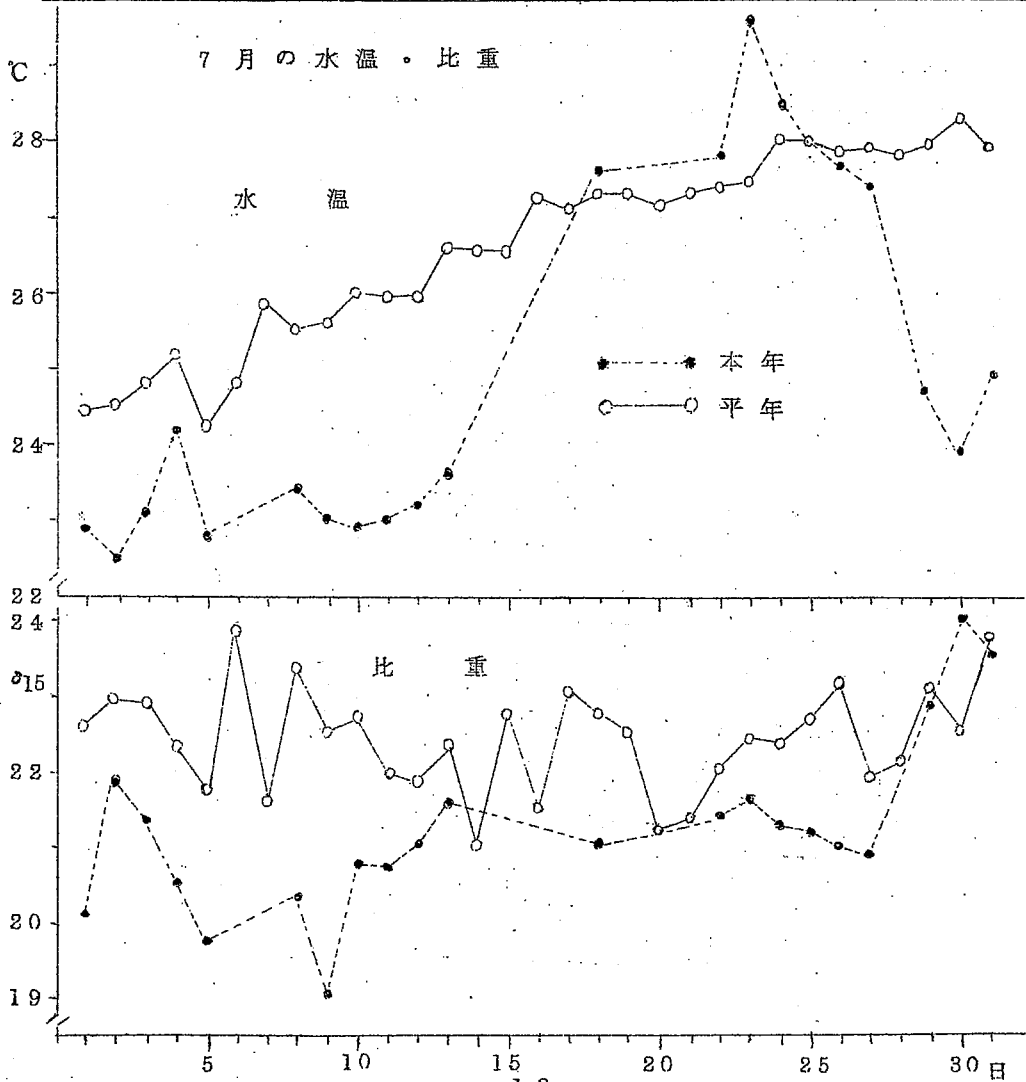
| 旬 別 | 浦 内 | | 水 成 川 | | 福 山 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 最 高 | 最 低 | 最 高 | 最 低 | 最 高 | 最 低 |
| 上 | 23.60 | 23.45 | 22.03 | 21.41 | 24.62 | 21.35 |
| 中 | 25.07 | 24.43 | 24.56 | 24.56 | 26.26 | 23.24 |
| 下 | 28.36 | 25.13 | 26.60 | 25.90 | 30.66 | 24.76 |
| 月 平 均 | 25.76 | 24.35 | 24.46 | 23.83 | 27.21 | 23.20 |
| 前 月 差 | +3.27 | +3.13 | +3.61 | +3.87 | +3.36 | +3.04 |
| 前 年 差 | -0.70 | -0.62 | -1.27 | -1.15 | -1.29 | -2.72 |

定 置 観 測 (7 月 分)

養 殖 部

○ 旬平均水温・比重 (満潮時, 表面)

| 旬 | 水 温 °C | | | | 比 重 °15 | | | |
|-----|--------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|
| | 本 年 | 前旬差 | 前年同期差 | 平年差 | 本 年 | 前旬差 | 前年同期差 | 平年差 |
| 上 | 23.10 | +0.60 | -2.70 | -2.08 | 20.46 | -2.13 | -2.51 | -2.22 |
| 中 | 24.85 | +1.25 | -2.75 | -2.41 | 21.08 | +0.62 | -2.09 | -1.06 |
| 下 | 26.94 | +2.59 | -0.56 | -0.86 | 21.98 | +0.90 | -0.29 | -0.52 |
| 月平均 | 24.98 | +3.02 | -1.83 | -1.62 | 21.23 | -2.65 | -1.53 | -1.22 |



7 月 の 漁 海 況

漁 業 部

旋網は依然として低調であつた。漁場別では薩南漁場の不振が大きく、枕崎港水揚は昨年約75%、一昨年約10%の1.41屯にとどまり、サバの漁獲が低下し総体の水揚に大きく影響している。

北薩漁場では、中、大型船は昨年並かやや低下気味であり、一昨年より大型船は1/3程度の減少、中型船は1/5の減少であるが、沿岸の小型船は昨年、一昨年を上廻り小アジ、小サバが増加している。

カツオ船は大型が昨年、一昨年を大きく上廻つたが、これはトンボ釣の不漁でカツオ漁への切替が早かつたことによるが、小型船は昨年より増加しており一昨年よりは不振である。枕崎港水揚の八田網は、本年は好漁が続いており小サバの割合が多くなつている。

水揚状況の比較

| 業 種 | 漁 港 | 4 3 年 | | 4 2 年 | | |
|--------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 隻 | 屯 | 隻 | 屯 | |
| 旋 網 | 阿久根 | 大 | 19 | 92.9 | 11 | 103.2 |
| | | 中 | 76 | 292.8 | 62 | 272.6 |
| | | 小 | 283 | 508.7 | 140 | 195.6 |
| | 枕 崎 | 13 | 141.1 | 55 | 792.3 | |
| | 串木野 | 21 | 141.5 | 33 | 222.6 | |
| | 内之浦 | 小 | 15 | 25.8 | 32 | 45.6 |
| カツオ一本釣 | 枕 崎 | 大 | 33 | 886.0 | 25 | 720.7 |
| | | 小 | 103 | 929.7 | 99 | 742.6 |
| | 山 川 | 大 | 18 | 673.1 | 6 | 199.5 |
| | | 小 | 102 | 863.7 | 99 | 662.6 |
| サバ一本釣 | 阿久根 | 38 | 44.9 | 8 | 8.6 | |
| 八 田 網 | 枕 崎 | 111 | 217.4 | 12 | 43.7 | |
| | 山 川 | 5 | 5.8 | 1 | 0.2 | |

8月も中旬となり、報告書取纏めの時期が例年通りやつて来た感じがするが、大島は8月に入り低気圧、台風等の影響で連日日中の室温は、30℃を上下し、時折にわか雨ともつかぬスコールが降り、どこからともなく汗がにじみ出て来る憂うつな日々が続いている。隔日毎の定期船は、未だ日焼けしきらない若い男女のリュック姿を亜熱帯の島に運び、例年通りの姿を街にかもし出している様である。殆んど沖永良部、与論島等の亜熱帯の島、澄んだ海にあこがれての観光であるが中には学術調査の目的で当大島を訪れる組もある。先日、一旅行者が不慣れた海岸に足を踏み入れ事故を起したが、サンゴ、熱帯魚等海の資源に亙られるのは結構であるが、資源の保護を前提にした観光であつてもらいたい。一方資源調査目的で訪れる調査団は大いに歓迎し、又良き開発資料を我々に残していつてもらいたい。

先月より小笠原返還に伴なう漁業一般についてマスコミが報道している様であるが、当諸島は緯度も大島と殆んど変わらない亜熱帯に属し、大島同様「亜熱帯の島」「サンゴ礁の島」等報道している。しかし復帰前迄は漁民らしき漁民は存在せず、自家消費に間に合うだけの漁獲しかしていない為、資源面では荒らされず大変豊富であるが、復帰と同時に大型船の密漁により、根こそぎ持つていかれると聞く。この様な資源保護という了見を持たない漁業者が存在する事は水産界にとって恥すべき事実である。事もあろうに法を破つてまで漁業資源は減少しているのであろうか。近年採る漁業より作る漁業が叫ばれているが、100%全部が業界で実つているとは言い難い状態である。水産にたずさわる人間として考えさせられる点が多分に存在する事を改めて認識すると同時に、期待にそつよう努力したい。一方当水試のマベ人工採苗も7月末の受精を始めとし、職員一同頑張つている次第です。

業 務 概 況

§ 本 場

庶務部

○ 人 事 異 動

* 7月10日付

命 水産試験場庶務部長(旧任 土木部住宅課課長補佐)

徳 田 重 雄

命 衛生部業務課課長補佐(旧任 水産試験場庶務部長)

上 原 弘

* 7月25日付

命 水産試験場庶務主任(旧任 伊集院保健所総務課主任)

林 森 弘

命 計量検定所庶務主任(旧任 水産試験場庶務主任)

伊 東 博

* 7月30日付

命 水産試験場(旧任 県立短期大学)

柳 田 聰 枝

命 蘭検定所(旧任 水産試験場)

西 郷 サ ヨ

漁業部

○ 7月15～24日 貝、エビ分布調査(枕崎～開聞沖合)

○ 7月24日～8月5日 大型魚礁設置予備調査(吹上浜)

○ 8月8～12日 バシヨウ流し網漁場調査

○ 8月6日 新調査船「さつなん」(116.57吨 PS520馬力(PS260
×2))引渡し

○ 8月10日 「さつなん」鹿兒島へ廻航

○ 8月16日 副知事、県議会議長、関係者により竣工式典及び祝賀式。

養 殖 部

○ 真珠漁場観測

龍ヶ水地先において、引続き実施中。表面水温は7月20日29.2℃を示して以来、26.5～28.5℃で異常高水温は示さない。比重は表面ではまだ22以下である。8月17日以来プランクトンも急減した。

○ ポリドラ、フジツボ幼生計数

龍ヶ水地先で7日毎にサンプリングし、ポリドラ、フジツボ幼生数を計数中であるが、フジツボが急減し、ポリドラも減少気味である。

○ アコヤガイ採苗試験

前月に引続き3ヶ所で委託試験中で、いずれもコレクターの稚貝付着率が悪い。

○ クルマエビ放流追跡調査(志布志町)

* 第3回目追跡調査(7月31日～8月1日)

6月19日放流したクルマエビ320万尾についてポンプ網による第3回目の追跡調査を実施。放流群の最大長7.6cm, 3g。

* 第4回目追跡調査(8月20日)

第4回目放流追跡調査、放流群と推定されるクルマエビについてはポンプ網で殆んど採集されなかつた。自然発生群が新たに出現した。

○ ノリ関係

* 糸状体培養(月間)

* のり養殖計画指導

8月22日～24日(出水市)

○ アワビ関係

* アワビ放流効果調査 8月7日～10日(里村)

去る5月16日に550個の標識放流を行なつたが、これの追跡調査及び漁場環境調査を実施した。これにより標識貝112個再捕され、また移動範囲も20～30m内で確認された。

* トコブシ、アワビ餌料別飼育試験(月間)

前月から継続してハバノリ、アオサ、ホンダワラ、コンブについて餌料別飼育。(龍ヶ水地先)

製造部

○ シワガザミ珍味製造試験

湾内底曳漁獲物のうち未利用のまま放棄されているシワガザミの珍味製造に当つて甲殻の軟化、色調の保持を図るための処理方法を検討した。

○ 明鮫脱色試験

前年実施の脱色予備試験に基づき実用化の方向を検討するため現地試験を実施した。

○ 煉製品を原料としてオナガザメの凍結貯蔵試験(継続)

○ 当月技術相談来訪者

26件 32名

調査部

○ クルマエビ配合餌料試験

主原料の比較を主目的とした第1回試験が開始以来30日目の7月31日で終了。引続き第2回目を8月12日、期間50日の予定で開始。

○ 定期漁場調査 7月24日及び8月1, 5, 20日

垂水市海潟、牛根地区ハマチ養魚場附近の水質、底質及び細菌調査。

○ 水質調査

経済企画庁委託による川内川河口沖合の水質調査を7月26, 27日実施。

大口養魚場依頼により、十曾川上流の水質調査を8月3, 4日実施。

阿久根地先沿岸の水質及び生物調査を8月7, 8日実施。

○ ハマチ養成指導

東町漁協及び阿久根漁協管下のハマチ養殖場に病魚が発生、依頼により8月6～8日迄その対策指導。

§ 大島分場

庶務係

○ 8月4日、西海区水研漁業資源部長が奄美海況調査のため来所。

漁業係

- 底定置網試験（瀬戸内町大浜）

製造係

- とび魚塩干，ウニ加工指導（龍郷村）
- 5月～7月までカツオ切込高 15.000kg
使用料 32,620円 納入済

養殖係

- 7月27日第1回マベ産卵誘発受精以後8月3日，7日，12日に産卵誘発を行ない，それら幼生飼育中。